

2012年4月11日

東京スカイツリータウン®・とうきょうスカイツリー駅に2つのアート！

東京スカイツリー®デザイン監修者 澄川喜一氏制作監修 “TO THE SKY”
「屋外彫刻」・「パブリックアート」が誕生します！

東武鉄道株式会社
東武タワースカイツリー株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）と東武タワースカイツリー（本社：東京都墨田区）では、2012年5月22日（火）にグランドオープンする東京スカイツリーのデザイン監修者で元東京藝術大学学長、文化功労者である彫刻家の澄川喜一氏が「TO THE SKY」と題した、屋外彫刻を東京スカイツリータウン®内「ソラマチひろば」に、パブリックアートを「とうきょうスカイツリー駅」に設置し、4月20日（金）に関係者による除幕式を執り行います。

屋外彫刻は、澄川喜一氏が長年のテーマとしている「そりのあるかたち」をもった石柱が、東京スカイツリーの足と同様、3本で鼎立する形となっています。

パブリックアートは、日本の伝統素材である陶板を用いた壁画で、業平橋押上地区の伝統性と東京スカイツリーの現代性をひとつに重ね合わせて表現しています。

東京スカイツリータウンがグランドオープンすると、「そり」と「むくり」による不思議な形をもった東京スカイツリーとともに、澄川氏の屋外彫刻とパブリックアートが多くのお客さまをお迎えすることになります。

概要は別紙のとおりです。

以上



△東京スカイツリー屋外彫刻（イメージ）

東京スカイツリー®屋外彫刻・とうきょうスカイツリー駅パブリックアートの概要

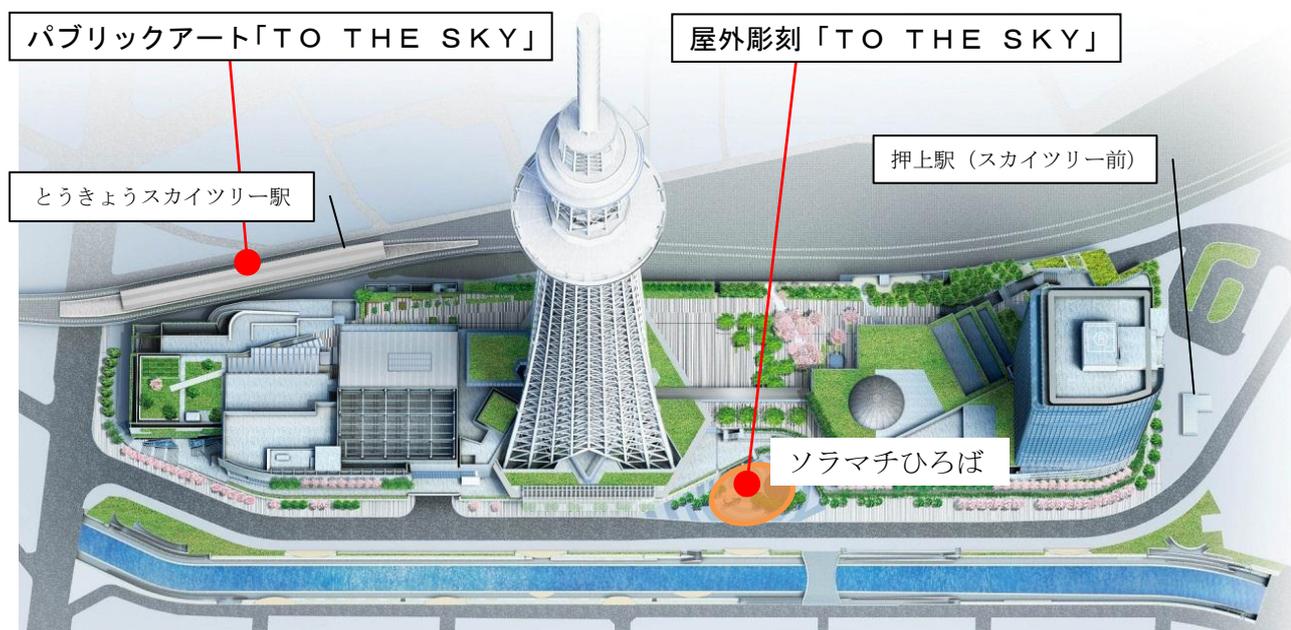
1. 東京スカイツリー屋外彫刻について

- (1) 題 名 「TO THE SKY」
- (2) 作 者 澄川喜一 氏
- (3) 様 式 彫刻（設置場所：東京スカイツリータウン®内「ソラマチひろば」）
- (4) サイズ 石柱1本あたり 1.2m×1.2m×高さ10m 重さ22トン
- (5) 素 材 花崗岩（徳山みかげ）

(6) 作者のことは

古代の人々は空に向かって高い柱を立て、天空に舞う多くの神々のご降臨を願ったと云う。1.2米角・高さ10米の石柱「そのりのあるかたち」を鼎立するスカイツリーに習い、三方向から寄り添うように立てたTO THE SKYは、天・地・人を表し、未来の安寧を祈る彫刻として心をこめて制作した。

東京スカイツリータウン鳥瞰図



2. とうきょうスカイツリー駅 パブリックアートについて

- (1) 題 名 「TO THE SKY」
- (2) デザイン
制作監修 澄川喜一 氏
- (3) 制 作 公益財団法人日本交通文化協会
- (4) 様 式 壁画（とうきょうスカイツリー駅 1階コンコース）
- (5) サ イ ズ 高さ 3000mm×幅 4109mm、高さ 3000mm×幅 4092mm（2枚1組）
- (6) 素 材 陶板レリーフ、漆喰

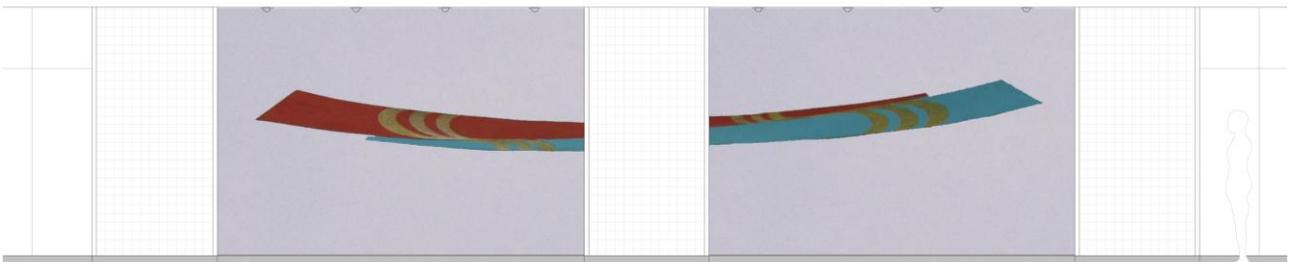
(7) 解説ほか **解説**

この壁画には世界一の高さを誇る電波塔として空へ伸びる「東京スカイツリー」のイメージとこの地に残る日本の伝統的なイメージがひとつに重ねあわされています。澄川氏が長年のテーマとされている<反り><TO THE SKY>の造形を日本の古来からの伝統素材<陶>を用いて表します。

澄川喜一氏のことば

江戸の伝統ある業平の地に赤・青・金の陶板を組み合せ一条の空をイメージした。

パブリックアートイメージ



澄川喜一氏略歴



昭和6年島根県に生まれる。

昭和27年東京藝術大学彫刻科入学。昭和56年東京藝術大学教授となり平成7年同学長を務める。日本藝術院会員・文化功労者。作品は木彫の「そりのあるかたち」シリーズをライフワークに、新たに日本神話から題材をとった金属の「OROCHI」シリーズも加わる。全国に野外彫刻・環境造形を多数手がける。

以 上